

【政策名】

【施策名】

【事業名】

【事業費】

4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略

1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

		(千円)
施策関連事業		7,082,415
芸術文化関連事業者緊急支援事業(事後評価)		14,982

※施策関連事業の総事業費は事後評価分を除く

政策評価（令和3年度）

政策評価調書

戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

幹事部局名 観光文化スポーツ部

評価者

企画振興部長

評価確定日

1 政策の目標（目指す姿）

- 本県ならではの魅力が際立つ誘客コンテンツや、観光客のニーズに応える受入環境を充実し、本県が多くの観光客に選ばれることにより、国内外からの誘客を拡大させます。
- 県産食品のブランディングと販路の拡大を進め、特色ある食文化を旅の目的とする集客を拡大するなど、「食」がリードする秋田の活性化を図ります。
- 文化やスポーツによる国内外からの交流人口の拡大を図るとともに、本県の多彩な文化・芸術の継承や、本県スポーツの競技力向上などを進展させます。
- これら活発な交流の基盤となる道路や公共交通など、交通ネットワークの充実にに向けた取組を結実させ、本県の未来を創り・支える交流の一層の拡大を進めます。

2 政策を取り巻く社会経済情勢

- 平成30年5月 ・ 秋田県民会館が閉館した。
- 平成30年9月 ・ J R 東日本の重点販売地域の指定を受けて「秋田県秋の大型観光キャンペーン」を実施した。
- 平成30年10月 ・ 「新・秋田の行事in仙北2018」が開催された。（2016年大館市、2017年大仙市に続いて3度目の開催）
- 平成31年2月 ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックの公認文化オリンピックアードである「東京キャラバンin秋田」が開催された。
- 平成31年3月 ・ 秋田空港に台湾定期チャーター便が就航した。
- 平成31年4月 ・ 令和3年に「東北デスティネーションキャンペーン」の開催が決定した。
- 令和元年7月 ・ 秋田市と共にあきた芸術劇場の建設に着手した。
- 令和2年2月 ・ 「2020 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が開催された。（平成27年から6年連続開催）
- 令和2年3月 ・ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、各ホストタウンで予定されていた事前合宿等も延期となった。
- 令和2年5月 ・ 羽田発着枠政策コンテストの結果、大館能代空港東京羽田線（1日2往復運航）において新たに発着枠の配分を受けることが決定した。
- 令和2年6月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、鹿児島県で開催される第75回国民体育大会が令和5年に延期となった。
・ 国の「G o T o トラベルキャンペーン」の開始（7月～）に先立ち、秋田県プレミアム宿泊券を発行した。
- 令和2年12月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、2021 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会の中止が決定した。
・ 日沿道「蟹沢 I C ~ 大館能代空港 I C」間が開通した。
- 令和3年2月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会（鹿角市）の中止が決定した。

3 政策を構成する施策の推進状況

3-1 施策評価の結果

施 策	施策評価の結果			
	H 3 0	R 1 (H 3 1)	R 2 (H 3 2)	R 3 (H 3 3)
施策4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	B	B	D	—
施策4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	B	B	D	—
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	B	B	D	—
施策4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	C	C	B	—
施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	A	A	A	—
施策4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	B	B	D	—

※施策評価の結果：「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階で判定した結果

3-2 施策評価の概要

【施策4-1】 地域力を結集した「総合的な誘客力」の強化
<ul style="list-style-type: none">● 代表指標の達成状況については、①「観光地点等入込客数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。● 代表指標①に関しては、令和元年実績値は35,270千人で2年目標値（34,000千人）の103.7%であったが、2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、移動自粛や外国人の入国制限等の措置により観光入込客数は大きく減少する見込みである。また、成果・業績指標①「延べ宿泊者数」、②「外国人延べ宿泊者数」、③「クルーズ船の寄港回数」も同様に減少する見込みである。● 一方、秋田県プレミアム宿泊券の発行や、県内旅行商品の造成支援、「#秋田を旅しよう」SNS投稿キャンペーンを行い、県内流動の促進による観光需要の下支えを行った結果、対前年比3割程度まで落ち込んだ宿泊者数を対前年比7割程度まで回復させるなど、一定の効果があつた。● また、秋田県公式観光サイトのリニューアルや、東北デスティネーションキャンペーンにおける本県独自の誘客促進ポスターの制作、重点市場である台湾・中国等でSNSによる情報発信の強化等の取組による新たな外国人のフォローの獲得等、アフターコロナを見据えた情報発信に取り組んだ。■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など、総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-2】 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進
<ul style="list-style-type: none">● 代表指標の達成状況については、①「食料品・飲料等製造品出荷額等」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。● 代表指標①に関しては、令和元年速報値が1,332億円となり、2年目標値（1,290億円）の103.3%の水準に達している。しかし、2年の実績値については、県が各業種に行ったヒアリング等によると、新型コロナウイルス感染症拡大に伴った外食需要の減少などにより、清酒出荷量は対前年比9.1%（元年17,811k1→2年：16,183k1）の減少、お土産品等としての売り上げが大きい稲庭うどんやいぶりがっこも対前年比1割～4割ほど減少しており、2年目標値を下回る見込みとなっている。● 売上げが落ち込んだ事業者を支援するため、日本酒セットの特別販売会や統一ラベル酒の企画・販売、県内量販店における県産品購入者へ送料の一部を負担するキャンペーンを実施したところ、特別販売会では約2,100万円、統一ラベル酒は約3,000万円を売り上げたほか、同キャンペーンに参加した12社の売り上げが対前年同期比が平均144%、注文件数で141%となるなど、日本酒や県産品の販売拡大につながつた。● また、「あきた発酵ツーリズム」については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により来客数が前年の約1/3程度に減少しているものの、アフターコロナにおける誘客の増加を見据え、補助金等を通して施設整備及び地域における誘客の取組を推進した。■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-3】 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出
<ul style="list-style-type: none">● 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「e」判定であり、定量的評価は「E」。● 代表指標①に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により当初予定していた事業等が実施できず、令和2年度は実績値が54,435人で目標値の465,000人を大きく下回つたものの、必要な感染防止対策を十分に講じた上で実施した「アーツアーツあきた」や「Akita Jam Festival 2020」等は多数の来場実績を上げた。● アフターコロナを見据え、祭りや伝統行事をはじめとした秋田ならではの文化の県内外への発信の取組を強化し、イベントの中止等を余儀なくされたアーティストや文化団体等が実施した無観客公演の開催の動画制作・配信への助成では、採択された7事業で計約43,000回を超える閲覧実績があり、芸術文化活動の支援につながつた。■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。
【施策4-4】 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大
<ul style="list-style-type: none">● 代表指標の達成状況については、①「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。
【施策4-5】 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備
<ul style="list-style-type: none">● 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

【施策4-6】 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- 代表指標の達成状況については、①「秋田県と県外間の旅客輸送人員数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、令和元年度実績値が5,384千人であり、2年度実績値は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県外との往来を控える要請がなされたこと等を受け、前年度を大幅に下回ることが想定される。そのような中においても、航空会社に対する着陸料助成や、バス・タクシー事業者等が事業継続を図るための支援を実施し、広域・地域の両面で交通ネットワークを概ね維持したほか、アフターコロナにおける需要の回復を見据えて、秋田・大館能代空港、秋田内陸縦貫鉄道、由利高原鉄道について、感染防止機能を向上させるための施設改修や備品の購入に対する助成等を行い、必要な取組を着実に実施した。
- 成果・業績指標①「一般乗合旅客自動車運送事業免許キロ数」については、乗合バス事業者及び市町村に対する運行費助成や路線再編の支援、地域の関係者が一体となった利用促進への取組により目標を達成している。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

4 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策評価の結果は、「A」1施策、「B」1施策、「D」4施策（施策の評価結果の平均点は1.83）であり、政策の定量的評価は「D」 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

- 定量的評価：施策評価結果を点数化して平均点を算出し、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。
 - ・ 施策評価結果の配点 「A」:4点、「B」:3点、「C」:2点、「D」:1点、「E」:0点
 - ・ 判定基準(平均点) 「A」:4点、「B」:3点以上4点未満、「C」:2点以上3点未満、「D」:1点以上2点未満、「E」:1点未満
- 定性的評価：施策の推進状況等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

5 県民意識調査の結果

質問文	満足度	評価年度(R3)の満足度(割合%)						3期プラン(4年間)の満足度(平均点)			
		十分 (5点)	おおむね 十分 (4点)	ふつう (3点)	やや 不十分 (2点)	不十分 (1点)	わからない ・ 無回答	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)
施策4-1	国内外から観光客が進んでいる。	1.2	6.2	33.8	21.8	17.6	19.5	2.75	2.55	2.40	
施策4-2	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.0	20.9	42.0	11.0	5.6	17.6	3.11	3.14	3.06	
施策4-3	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.0	11.9	42.1	19.1	9.8	15.1	2.81	2.79	2.73	
施策4-4	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。	2.7	17.8	45.1	15.2	7.3	11.8	2.95	2.91	2.93	
施策4-5	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	1.6	13.7	43.6	18.4	11.5	11.2	2.69	2.78	2.72	
施策4-6	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	1.2	9.0	38.7	22.7	17.1	11.3	2.41	2.53	2.49	

調査結果の認識、取組に関する意見等

- 各施策に関する質問の5段階評価による満足度の平均点は「2.40」～「3.06」であり、施策4-2に関する質問を除いて「ふつう」の3より低かった。施策4-2の質問に対する満足度が最も高く(3.06(対前年度比△0.08))、施策4-1が最も低い(2.40(対前年度比△0.15))結果となり、前年度と比べ満足度が上がったのが1施策、下がったのが5施策となった。
回答では、全ての質問で「ふつう」が最も多かった。
- 「不十分」又は「やや不十分」を選んだ理由や県に求める取組として、満足度の平均点が最も低かった施策4-1に関する質問については、自然や食べ物の魅力を伝えられる宣伝と利用しやすい観光地としての環境整備をすべきなどの意見があった。
同様に2番目に低かった施策4-6に関する質問では、県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪いなどの意見があった。

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

6 課題と今後の対応方針

施策	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
4-1	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、県内観光産業は観光客の急激な減少や旅行者の観光に対する意識の変化への対応を迫られるなど、大きな影響を受けている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.40と最も低く、自然や食べ物の魅力を伝えられる宣伝と利用しやすい観光地としての環境整備をすべきなどの意見があった。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、県内流動や県外に向けた誘客を展開するとともに、ウィズ・アフターコロナに対応する本県の特徴ある体験型コンテンツの発掘・磨き上げや商品化支援を行う。</p> <p>● SNSや各種メディアを活用し、秋田の多彩な魅力を積極的に発信するほか、Wi-Fi整備など滞在環境の充実により、旅行者の満足度向上に資する受入態勢を強化していく。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-2	<p>○ 「あきた発酵ツーリズム」の体験型観光コンテンツは徐々に整備されつつあるが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で拠点施設への来客が伸び悩んでいる。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の収束後に向けて、整備した拠点施設を中心に発酵ツーリズムのHP等での発信を強化していく。また旅行商品造成のために旅行会社との連携を強化する。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-3	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした本県ならではの文化の発信が十分に進んでいない。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により大規模な公演等が開催できない芸術文化事業について、実際に秋田ならではの文化に触れることができない県内外の人々に対して動画を配信するなど、様々な手法により本県文化の国内外への積極的な発信を進める。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-4	<p>○ 少子化によりジュニア層の競技人口が減少している中、指導者の不足等により競技能力の高い小中学生が県外校へ進学している。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 競技力向上連絡協議会の中に3名の外部有識者を含む強化策検討部会を設置し、これまでのジュニア層の強化策を抜本的に見直し、「チームAKITA強化・育成システム」を立ち上げる。また、競技団体が主体となり、学校の枠を越えて秋田県全体の競技力向上を図るとともに優秀な指導者を養成することで、小中学生の県外流出を防ぐ。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-5	<p>○ 高速道路の開通見通しが一部公表されていない区間があり、企業誘致や物流、観光振興等への影響が危惧される。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 関係機関との連携を強化し、高速道路の開通見通しについて、未公表区間を早期に公表するよう国に対して要望していく。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-6	<p>○ 人口減少や運転手不足に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により、住民生活の基盤となる地域公共交通の維持・確保が一層困難になっている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.49と2番目に低く、県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪いなどの意見があった。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 地域の実情を踏まえ、路線バスやコミュニティ交通のほか、住民が主体となる自家用有償運送など様々な交通モードを組み合わせて、持続可能な地域交通の形成に取り組む。</p> <p>● 市町村を跨いで運行する広域バス路線について、他の交通機関との接続を意識したダイヤ編成とするなど、市町村や交通事業者と連携して、利用者目線による各地域の移動ニーズに即した地域公共交通ネットワークの改善を図る。</p> <p style="text-align: right;">など</p>

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

7 政策評価委員会の意見

--

施策評価（令和3年度）

施策評価調書

戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	文化振興課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	

1 施策のねらい（施策の目的）

多くの訪日客を迎える東京オリンピック・パラリンピックは、本県の文化を国内外にアピールできる絶好のチャンスであることから、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することで、交流人口の拡大につなげていきます。

また、本県の文化を発展させ、次の世代に継承していくため、文化団体の活動の活発化や若手の人材育成に取り組むとともに、本県文化の中核拠点となる文化施設の整備を推進します。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①							施策の方向性(1)～(3)	
年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
文化事業への来場者数(人)	目標			455,000	460,000	465,000	470,000	
	実績	449,311	315,365	465,879	450,445	54,435		
	達成率			102.4%	97.9%	11.7%		
出典:県文化振興課調べ		指標の判定		a	b	e		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
<ul style="list-style-type: none"> 本県の芸術文化活動の振興に寄与し、かつ公益性のある文化事業について積極的に後援した（43件（対前年度比△41件））ほか、県内の文化団体等が行う交流人口の拡大等に資する取組9件（対前年度比△13件）について助成（「文化による地域の元気創出事業費補助金」）等を行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年10月に男鹿市で開催する予定だった「新・秋田の行事（2日間で見込み来場者30,000人）」の中止等を受け、目標を大きく下回った。 								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率≥100% 「b」：100%＞達成率≥90% 「c」：90%＞達成率≥80%

「d」：80%＞達成率 又は 現状値＞実績値（前年度より改善） 「e」：現状値＞実績値（前年度より悪化）

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(1)(2)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
「beyond2020プログラム」認証事業数(件)	目標			20	30	40	50	
	実績	—	7	37	38	23		
出典:県文化振興課調べ	達成率			185.0%	126.7%	57.5%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	
		東北	—	—	—	—	—	
	・東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、国が日本文化の魅力 ホームページ等で世界に向けて紹介する「beyond2020プログラム」について、平成30年4月から本県も認証組織になったことから、県内文化団体等に対する同プログラムの周知に努めるとともに、「文化による地域の元気創出事業費補助金」において同プログラムの認証を受けることを交付要件としたこと等で認証件数が増加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により事業の申請が減少したため、目標を下回った。							

2-3 施策の取組状況とその成果(施策の方向性ごとに記載)

(1) 秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大【文化振興課】	指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 県内文化団体等への「beyond2020プログラム」の周知等に努めるとともに、民間団体が企画する芸術文化活動等の開催経費に対して助成する「文化による地域の元気創出事業費補助金」において、同プログラムの認証を受けることを交付要件としたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、認証件数は23件<△15件>にとどまった。 あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」及びFacebookにおいて、県主催事業やあきた文化交流発信センターのイベント情報等を随時発信した。「ブンカDEゲンキ」のページビュー数は85,043回<△23,773回>、Facebookの「いいね」数は5,068件<△20件>であった。 文化団体による民謡や音楽、ダンスなどの文化イベント開催や、美術、文芸作品の展示など、県民が日常的に鑑賞できる場である「あきた文化交流発信センター(秋田駅前商業施設内)」において、民謡や秋田万歳等の伝統芸能をはじめとする文化イベントが開催されたほか、書道・いけばな・写真や本荘ごてんまりなどの展示を実施し、本県文化に触れる機会を提供したが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、文化イベントの開催数が減少し(文化イベント82件<△76件>、展示14件<△5件>)、来場者数も延べ8,289人<△19,260人>にとどまった。 		
<新型コロナウイルス感染症の影響>		
<ul style="list-style-type: none"> 伝統行事「男鹿のナマハゲ」にスポットを当て、男鹿市において本県を代表する伝統芸能等が一堂に会する「新・秋田の行事」を2日間開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、中止となった(出演団体は17団体を予定<+5団体>)。 アフターコロナを見据え、小正月行事を中心とした県内の伝統行事の動画を制作・配信した(8本)ほか、「お祭り体験ツアー」は、感染防止対策を講じながら、男鹿市ならではのナマハゲ太鼓のほか秋田民謡等を体感する内容で実施し、県内外から175人が参加した。 		

(2) 文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成【文化振興課】	指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化活動を促進するため、「あきた県民文化芸術祭」を開催(令和2年9~11月)したが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県、市町村、文化団体による32件<△30件>の文化事業への参加にとどまった。また、工芸の分野で1人に「秋田県芸術選奨」を、ミュージカルの分野で1団体に「ふるさと文化賞」をそれぞれ贈り、優れた創作活動を顕彰した。 将来性のある音楽家の発掘・育成を目的とした「青少年音楽コンクール」を開催した(延べ177人参加<+19人>)。また、県民の文芸活動の創作意欲の高揚と文芸活動の普及振興を図ることを目的に、広く県民(県外の県出身者を含む)から文芸作品を公募し、受賞作品を掲載した作品集を刊行した(応募作品284点<+29点>)。 若者の力で秋田を元気にする目的で実施した「アーツアーツあきた」において、本県で活躍する若手アーティストによる絵画、彫刻、映像分野の美術展覧会を開催した(出展アーティスト3組<△11組>、来場者数756人<△2人>)ほか、展覧会等での発表を希望する若手アーティストを募り、活動を支援した(アーティスト3人<±0人>、来場者数1,223人<+162人>)。 秋田県芸術文化振興基金により、民間団体の多彩な芸術文化活動や若者の文化活動に対して支援を行った(9件<△13件>)。 		
<新型コロナウイルス感染症の影響>		
<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動の中止等を余儀なくされ、活動できない状態が続くアーティストや活動を披露するために必要不可欠な舞台運営に関わる事業者を支援するため、無観客公演の開催及びその動画制作・配信の取組に対して助成した(7件)。 文化活動の発表や鑑賞機会の維持・拡充を図るため、あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」に動画配信機能を付加し、芸術文化団体等の活動に関する動画の制作・募集を行い、広く配信した(配信動画数36本)。 		

(3) 本県文化の中核拠点となる文化施設の整備【文化振興課】	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> 秋田市と連携して整備を進めている「あきた芸術劇場ミルハス」について、令和4年6月の開館に向けて事業を進めており、3年3月末時点の建築工事の進捗率は43.4%となっている。 あきた芸術劇場ミルハスの開館に向け、県民・市民の機運醸成と施設の更なる周知を図るため、令和3年2月に秋田市文化会館等において、郷土芸能演劇ワークショップを開催（参加者43人）したほか、同年3月には秋田拠点センターアルヴェにおいて、愛称発表イベントを開催した（来場者約320人、出演者110人）。 県民会館の閉館中もより多くの県民が芸術文化に触れる機会を提供するため、令和2年12月に県立武道館において、新型コロナウイルス感染防止対策により来場者数を制限したものの、吹奏楽、舞踊、伝統芸能等のステージイベント「Akita Jam Festival 2020」を開催した（来場者約815人△685人、出演者230人△10人）。 県民会館の閉館中も県民が質の高い音楽に触れる機会を提供するため、県内の高校2校を対象にプロの演奏家によるアウトリーチを実施したほか（4回延べ参加者218人）、その集大成となる合同演奏会を令和3年2月にアトリエ音楽ホールにおいて開催した（参加者84名、来場者114名）。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「e」判定であり、定量的評価は「E」。 ● 代表指標①に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により当初予定していた事業等が実施できず、令和2年度は実績値が54,435人で目標値の465,000人を大きく下回ったものの、必要な感染防止対策を十分に講じた上で実施した「アーツアーツあきた」や「Akita Jam Festival 2020」等は多数の来場実績を上げた。 ● アフターコロナを見据え、祭りや伝統行事をはじめとした秋田ならではの文化の県内外への発信の取組を強化し、イベントの中止等を余儀なくされたアーティストや文化団体等が実施した無観客公演の開催の動画制作・配信への助成では、採択された7事業で計約43,000回を超える閲覧実績があり、芸術文化活動の支援につながった。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

●定量的評価:代表指標の達成状況から判定する。

「A」:代表指標が全て「a」、「B」:代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」:代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」:代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」:代表指標が全て「e」、「N」:代表指標に「n」を含む

●定性的評価:成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■総合評価:定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。					
満足度	調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	18.1%	17.0%	13.9%		△3.1
	十分 (5点)	2.4%	2.5%	2.0%		△0.5
	おおむね十分 (4点)	15.7%	14.5%	11.9%		△2.6
	ふつう (3点)	39.7%	40.6%	42.1%		+1.5
	否定的意見	27.4%	28.3%	28.9%		+0.6
	やや不十分 (2点)	18.5%	18.9%	19.1%		+0.2
	不十分 (1点)	8.9%	9.4%	9.8%		+0.4
	わからない・無回答	14.9%	14.1%	15.1%		+1.0
平均点		2.81	2.79	2.73		△0.06
調査結果の認識、取組に関する意見等						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.73」で、「ふつう」の3より0.27低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.9%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.9%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は56.0%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっとSNSを利用して若い世代にアピールしたい。(女性/40歳代/平鹿地域) ・後継者を育て、新しい風を入れてください。今のままではマンネリです。(女性/50歳代/秋田地域) ・秋田県民が秋田の自然、文化を知らなすぎ。自信を持ってアピールできていない。(女性/60歳代/秋田地域) 						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした本県ならではの文化の発信が十分に進んでいない。 ● 秋田県民が秋田の自然、文化を知らなすぎ。自信を持ってアピールできていない。(県民意識調査より) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により大規模な公演等が開催できない芸術文化事業について、実際に秋田ならではの文化に触れることができない県内外の人々に対して動画を配信するなど、様々な手法により本県文化の国内外への積極的な発信を進める。 ● 「あきた文化交流発信センター」や「ブンカDEゲンキ」等において、秋田の文化に関する情報を紹介していくほか、伝統芸能など秋田ならではの文化に気軽に触れ、魅力を実感してもらえるよう、体験型メニューの充実やデジタルツールの活用などにより効果的な発信に努める。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統芸能や芸術文化活動の担い手の高齢化が進んでいる中、若者育成の観点で取り組んでいる事業への参加が伸びない。(県民意識調査で同様の意見あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内外の若者に秋田の伝統芸能等について関心を持ってもらえるよう、由来等の紹介や実演・体験を取り入れるなど、新たな手法による取組を実施するほか、引き続き若者の作品発表機会の充実に向けた取組や文化活動への助成制度等を広く周知しながら、鑑賞者の増加への取組と併せ、県全体で若者育成の機運の醸成を図る。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年6月に開館予定の県・市連携文化施設である「あきた芸術劇場ミルハス」では、従前の秋田県民会館における利用受付方法(原則として窓口で手続を行う)の改善を求める声がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 窓口での受付に加え、FAX、メール、郵送等による受付やクラウドサービスの施設予約システムを導入することにより、利用者の利便性・満足度の向上を図っていく。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

事業コード 0030201	政策コード 04	政策名 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略	事業年度 令和02年度 ~ 令和02年度
事業名 芸術文化関連事業者緊急支援事業	実施コード 03	実施名 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	
部署名 観光文化スポーツ課	指標コード 02	指標名 文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成	
課室名 文化振興課	班名 調整・文化振興班	担当課長名 安田 路子	担当者名 野村 桃子
<p>1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術活動の中止や延期を余儀なくされている中、活動できない状態が続くアーティストや、その活動を披露するに当たって必要不可欠なステージイベントの運営に関わる事業者の事業継続を可能とし、本県の芸術文化活動の停滞を防ぐ取組が急務である。</p>			
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せず、これまでと同様のステージイベントを開催することができない状況においては、オンラインを活用した活動の有効性が一般的に認知されるようになった。</p>			
<p>2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期 : R03 年 03 月) 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 (具体的に 事業終了後の聞き取り) 満足度の状況 採択事業者からは、感染が続く状況においても、関係者と協力した無観客公演の開催、動画配信を実施したことにより、今後の活動において新たな活路を見いだすことができた等の意見があった。</p>			
<p>3. 事業目的(どのような状態にしたかったのか) 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催等文化芸術活動が中止や延期を余儀なくされている中、本県の芸術文化への関心と熱意を盛り上げるべく、音楽や伝統芸能等の無観客公演の実施やその動画制作・配信を通じて、芸術文化活動団体等の活動を支援し、地域の活性化を図る。</p>			
<p>4. 目的達成のための方法 事業の実施主体 県 事業の対象者・団体 芸術文化活動を行う事業者及び団体 達成のための手段 有観客公演の開催は当面困難な状況であったことから、無観客公演の開催による動画配信は芸術文化関連事業者等に対する即効性のある支援であるとともに、県民に広く県内の芸術文化活動を知ってもらう、芸術文化への関心と理解を深めてもらうことで県内の芸術文化活動の停滞を防ぐ取組としても有効である。</p>			
指摘事項への対応		5. 前回評価における指摘事項等 指摘事項	
6. 事業の内容及び推進状況 事業概要 補助事業の実施を申請した芸術文化活動を行う事業者や団体のうち、審査で採択した7事業者が無観客公演の実施及びその動画の配信を実施し、補助金を交付した。			
事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
芸術文化関連事業者緊急支援事業		15,000	14,982
		0	0
		0	0
		0	0
		0	0
事業費計		15,000	14,982
国庫補助金		15,000	14,982
県 債		0	0
そ の 他		0	0
一 般 財 源		0	0
当初計画及び最終の事業費比較 最終事業費 / 当初計画事業費 = (0.99)			

所管課の評価		評価結果	
<p>7. 事業の効果及び課題の改善状況</p> <p>7 事業者が制作した動画の総視聴回数は、令和3年3月末時点で延べ4万回を超え、うち約2万回については民謡を題材とした動画であり、秋田県の代表的な文化への関心の高さを示す結果となった。また、1公演あたり複数のアーティスト、イベント関連事業者等が各事業に関わっており、活動や事業継続の支援として一定の効果があった。</p>		住民満足度の状況 【b又はcの場合の分析】	
		a	c
有効性の観点		事業の効果 a 達成率100%以上 b 達成率80%以上100%未満 c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】	
		適用の可否 可 不可	
		A	
		B	
		C	
効果性の観点		事業の経済性の妥当性 a 1.0~ b 0.8~1.0 c ~0.8 事業終了後の効果 / [当初計画時の効果] = 1.66 最終事業費 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】	
		事業の経済性の妥当性 適用の可否 可 不可	
		A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)	
		A 1.0~	
		B 0.8~	
		1.0	
		C ~0.8	
総合評価		新型コロナウイルスの感染症の影響により、ステージイベントが開催できない文化活動を行う事業者や関連する事業者等にとって、無観客公演の開催・動画配信は今後の活動や事業継続の支援の一端となり得たと考えらる。また、動画配信による文化発信という新たな手法に対する理解と取組意欲の向上が進み、県内外に秋田県の芸術文化活動への関心を喚起することできた。	
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)			
政策評価委員会意見			
成果(見込まれる効果)			

8. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み		指標の種類						
指標名	補助事業の実施に携わる芸術文化関連事業者及び団体等数	成果指標	業績指標					
指標式	補助事業対象経費の対象となる芸術文化関連事業者及び団体等数(令和2年度で事業終了)							
年度別の目標値(見込まれる効果)	低減目標指標	該当	非該当					
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体
目標a	0	0	0	0	0	0	30	30
実績b	0	0	0	0	0	0	54	54
b/a							180%	0%
データの出典	文化振興課調べ							
把握する時期	当該年度中	03月	翌年度	月	翌々年度	月	翌々年度	月
指標名								
指標式								
年度別の目標値(見込まれる効果)	低減目標指標	該当	非該当					
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体
目標a	0	0	0	0	0	0	0	0
実績b	0	0	0	0	0	0	0	0
a/b								0%
データの出典								
把握する時期	当該年度中	月	翌年度	月	翌々年度	月	翌々年度	月
指標を設定することができなかった場合の把握方法	指標を設定することができなかった理由							
指標を設定することが出来なかった理由								